

そよかぜ

2015年11月 Vol.19

秋号

病院の理念

私たちは
「ゆるぎない信頼、心からの満足」
をしていただける病院を目指します。
人としての尊厳を重視した上で専門医療(国
の定める政策医療)に誇りを持ち、地域の
皆様が安心して心身ともに癒される医療を
受けていただけるよう全力を尽くします。

CONTENTS

南岡山医療センター グランドオープン式典・記念イベント	2・3
職場紹介 リハビリテーション科	4・5
耳鼻咽喉科より	6
皮膚科より	6

南岡山医療センター グランド



当院の建替整備は、平成19年12月の外来・サービス棟完成と三度の構も全て完成したことより、平成27年中、病院グランドオープン式典・記



午前の完成式典では、宗田院長より式辞にて関係者のみなさま方への感謝の意を表し「今後も医療の質を高め、地域に開かれた病院にしていきたい。」と挨拶されました。

その後の病院玄関でのテープカットの際には、地元の早島中学校の吹奏楽部の生徒さんによる演奏にて演出していただき、また早島地域貢献ボランティアグループの早島イ草太鼓倶楽部の方々による豪快な演奏もあり、まさしく地域のみなさまに大いに盛り上げていただきました。



このたびのグランドオープンを機に早島町の理解が得られ、6月より町の無料コミュニティバスの病院敷地内への乗り入れも開始されたことから、当日にはバス運転手さんへの花束贈呈のイベントもおこなわれました。



午後からは、住民の方々を招待し集団特定健康診査の実施や各職種ブースでの健康相談や検査体験、ミニ講演会、展示コーナーでは当院イメージマスコットへのゆるキャラ投票などさまざまな企画を開催し200名を超える多くの方々にお越しいただき喜んでいただきました。

当院として、地域の住民の方を招いてのイベントは初めての試みであり、当初なかなかイメージがわかない中で準備をはじめ、本当に地域の方に来ていただけるのか蓋を開けてみないと

オープン式典・記念イベント

経営企画係長 後山 勝

月の重症心身障害病棟に始まり、平成25年6月の中央病棟、平成26年の長きに渡る工事も無事終了し、このたび150台の外来駐車場を整備し外6月21日(日)関係者のご来賓、地元早島の住民の方々をお招きし、晴天記念イベントを執り行いました。



分からないまま当日を迎えましたが、たいへんにぎやかなイベントとなり職員も含め多くの方々の笑顔を見受けることができました。

今後もこのような企画等を通じ、病院が地域に根付いて、安心して医療を受けていただけるよう南岡山医療センターをアピールできたらと考えております。



独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター 完成記念式典

式次第

10:30	受付開始
11:00	完成記念式典
	一、開式のことば
	一、式 辞
	一、挨拶
	一、来賓祝辞
	一、感謝状贈呈
	一、閉会のことば
11:30	テークアウトのための空間へ移動
11:40	一、催し物 早島中学校吹奏楽部による演奏
11:45	一、テークアウト
11:47	一、催し物 多聞会太鼓演奏部 早島イ草太鼓
12:00	一、終 了



リハビリテーション科

私たちリハビリテーション科は、宗田リハビリテーション科医長（院長）及び、非常勤医師4名を始めとし、理学療法士12名、作業療法士9名、言語聴覚士5名、マッサージ師1名で組織されます。

神経筋疾患・呼吸器疾患・がん・整形外科疾患・発達障害・重症心身障害児等の政策医療を中心とした疾患を対象としています。

リハビリテーション室は、平成27年1月の新外来棟の移転に伴い、従来に比べて広さ（595.43m²）、設備ともに充実しました。また、大きな窓からの眺望は、自慢の一つです。



1 ADL シミュレーター

在宅復帰を想定し、実際の自宅環境に近い状況で、ADL訓練を実施し、退院支援を図ります。



2 カンファレンス室

リハビリテーション医療ではチームアプローチが重要です。ここでは多職種間で情報交換を行い、効果的なチーム医療を実践します。



3 言語聴覚室

個別の言語聴覚室を4部屋配置し、落ち着いた環境で個々に応じた訓練を実施します。



4 こどものリハ室

ブランコやハンモック等を揃え、子どもに感覚刺激や運動刺激など、遊びを通じた関わりを行います。



リハビリ室から見える絶景



理学療法スタッフ

運動療法や呼吸・がんリハビリを中心に、リハビリ開始時から退院時まで患者様と関わる事で、入院中のADL・QOLの向上を図り、円滑な退院支援を行います



作業療法スタッフ

神経筋疾患には意思伝達装置の導入を、呼吸器疾患には息切れ感の緩和に向けた動作指導や環境調整などを行います。また、その他の疾患についても様々な作業活動を用いて、患者様の生活を支援します。



言語聴覚療法スタッフ

大人から子どもまで状態に応じて摂食嚥下訓練や言語訓練を行います。特に嚥下障害の方には、嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査を実施し、「口から食べたい」を支援します。

耳鼻咽喉科より

舌下免疫療法で、舐めてスギ花粉症を治しましょう!

耳鼻咽喉科 医長 赤木 博文



スギ花粉症をはじめとするアレルギー性鼻炎の治療法としては、アレルゲン（アレルギーの原因となるスギやダニ等の抗原）の除去・回避、薬物療法、特異的免疫療法、手術療法などがあります。特に当科では、スギ花粉症の発症予防法として、1. 花粉飛散前からの薬物治療（初期療法）、2. 予防的レーザー治療、3. 花粉飛散前からの機能性健康食品（免疫系改善作用が証明されている乳酸菌含有食品等）の摂取などを薦めています。

2014年10月より、家庭で行える特異的免疫療法として、スギ花粉症の舌下免疫療法が一般医療機関で認可されました。大半の治療法が対症療法なのに対して、舌下免疫療法は完全治癒が期待できる根治療法として位置づけられており、当院で対応可能ですので、紹介させていただきます。

特異的免疫療法は、アレルゲンを少量から投与することで、身体をアレルゲンに慣らし、症状を和らげていく治療法です。アレルゲンを用いて行う治療法のため、原因となるアレルゲンを確定する確定診断が必要です。

スギ花粉症の舌下免疫療法は、スギがアレルゲンと確定され、スギ花粉症と診断された12歳以上の患者さんが対象となります。1日1回、少量から服用を始めて、2週間は徐々に増量し、その後は決まった量を継続して服用します。初めての服用は、スギ花粉飛散3カ月以上前に、医師の監督のもとに行う必要があります。まず1シーズン乗り切り、少しでも有効ならば、著しく改善していく可能性が高く、数年間継続服用していただきます。

スギ花粉症の舌下免疫療法を適正に行うには、以下の事項を十分に理解して、厳守できることが必要となります。

1) スギ花粉が飛散していない時期も含めて、治療を長期間継続できる。2) 治療薬の服用（舌下に約2分間保持）を毎日継続できる。3) 1か月に1度は受診できる。4) すべての患者さんに有効なわけではなく、無効例が約20%あります。5) アナフィラキシーなどの副作用が起こる可能性があります、等。

スギ花粉症に悩まされ、完全治癒を期待され相談されたい方は、一度耳鼻咽喉科を受診してみてください。

皮膚科より

皮膚科 医師 藤原 愉 高



このところ皮膚科領域の新薬がいくつか発売されて、皮膚疾患の治療も少し変わってきています。一つ目はニキビの薬です。これまでの薬は毛穴の中のニキビ菌をやっつける抗菌薬の外用が主体でしたが、ニキビの根本である毛穴の角化を抑制する作用と抗菌作用を併せ持つ外用薬が使えるようになりました。しかも、1日1回入浴後に塗布するだけで効果が得られます。今までに比べて効率良くニキビの発生を抑えることができます。

二つ目は乾癬の薬です。乾癬の基本治療はステロイドの外用とビタミンD3の外用なのですが、この2つの薬を1つにした外用薬が発売されました。しかも1日1回の外用で両方の薬の効果が得られます。

三つ目は爪水虫の薬です、これまで爪水虫は内服薬でないと治療が困難でしたが、このたび塗って効果のある薬が発売されました。爪がきれいに生え変わるまで外用する必要がありますので、時間と手間はかかりますが、確かに効果があります。

最後に男性型脱毛症の薬です。これまで1種類しか飲み薬がなかったのですが、9月に新しい薬が認可されました。発売は12月ごろの予定です。これまでの薬より作用が強力とのこと。



独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話 (086) 482-1121 (代表)

F A X (086) 482-3883

<http://www.sokayama.jp/>

